

『安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム』
平成30年度県民大会の開催結果の概要

1. 日 時

平成31年3月19日（火）14:00～16:35

2. 場 所

三重県庁講堂

3. 参加者

約170名（座談会等参加の県民・事業者が9割以上）

4. 来 賓

【来賓祝辞】

・犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議会長 上野 達彦氏

【まちづくり推進会議委員（計6名）】

・南部 美智代氏（NPO 法人災害ボランティアネットワーク 鈴鹿 理事長）

・黒田 浩二 氏（NHK 津放送局 副局長）

・山本 優 氏（吹上町内安全防犯徒歩パトロール隊 防犯アドバイザー）

・森永 昭和 氏（三重県 PTA 連合会 副会長）

・藤村 喜成 氏（NPO 法人三重県防犯設備協会 理事長）

・佐藤 学 氏（一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会）

【県議会議員（計3名）】

・前田 剛志氏（議長）、青木 謙順氏、長田 隆尚氏

5. 開催結果概要

～第1部～

（1）主催者あいさつ [14:05～14:10]

鈴木英敬知事から、「県民の皆さんの不安を解消するため、アクションを広げていくとともに、本日集まりの皆さんと一緒に議論しながら、より良い次期アクションプログラムを策定していきたい」旨のあいさつがありました。



主催者あいさつ

（2）来賓祝辞 [14:10～14:15]

上野達彦氏より「幸福実感日本一の三重を実現するためにも、県民・事業者等が一丸となって防犯・交通安全・犯罪被害者等支援に取り組んでいかなければならない」旨のご祝辞をいただきました。



上野会長のご祝辞

(3) アクションプログラム平成30年度の総括 [14:15~14:30]

環境生活部くらし・交通安全課担当者からスクリーンを用いて、アクションプログラム推進における成果と課題等の説明を行いました。



アクションプログラムの総括

(4) パネルディスカッション [14:30~15:40]

摂南大学法学部中沼准教授をコーディネーターとして、県民・外国人との協創・事業者・若者それぞれの分野の第一線でご活躍する方をパネリストとしてお迎えし、『みえの安全・安心のために行動と知恵を集めよう!』と題するパネルディスカッションを実施し、日々の活動におけるさまざまなアイデア、来場者に伝えたいメッセージなどをいただきました。



パネルディスカッション

ご登壇者

■コーディネーター:

○摂南大学法学部 准教授 中沼 丈晃 氏

■パネリスト:

【県民代表】

○海蔵セフティネット協議会 (四日市市)
会計 上野 尚子 氏

【外国人との協創】

○桜島地区安全安心パトロール隊 (鈴鹿市)
隊長 栗木 健一 氏

【事業者代表】

○テイ・エス テック株式会社鈴鹿工場
管理課長 佐野 直哉 氏

【若者代表】

○県立志摩高等学校「ハイスクールパトロール〜アフターG7〜」
1年生 石野 未来 さん



< 休憩 > [15:40~15:50]

～第2部～

(5) 三重大学吹奏楽団の皆さんによる演奏 [15:50～16:25]

三重大学吹奏楽団の皆さんから、会場内の一体感を高めるような、親しみのある曲目の演奏やダンスなどが披露されました。



三重大吹奏楽団の演奏

(6) 大会宣言 [16:25～16:35]

今年度開催した「三重県安全・安心まちづくり地域リーダー養成講座」の修了者を紹介するとともに、同講座修了者から4名の県民・事業者の方が代表して「私たちが自らアクションを起こすとともに、さまざまな主体が力を一つにし、『オール三重』で防犯・交通安全・犯罪被害者等支援に取り組んでいく」旨の大会宣言を読み上げました。



大会宣言

※会場内では、NPO 法人三重県防犯設備協会、一般財団法人三重県交通安全協会、公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター、四日市市の提供による防犯・交通安全・犯罪被害者等支援にかかる啓発展示を行いました。



会場内展示ブース

6. まとめ

アクションプログラムのキックオフから2回目となる今回の大会では、地域でアクション（防犯・交通安全活動）を起こしていただいている県民・事業者の皆さんをはじめ、市町、警察、関係団体等さまざまな主体からのご参加をいただきました。

大会では、県民・外国人との協創・事業者・女性を代表するパネリストの方によるメッセージ、大会宣言等を通じて、『オール三重』で防犯・交通安全・犯罪被害者等支援に取り組んでいく決意を県民の皆さんとともに確認しました。

この決意を県民の皆さん等と共有しながら、さらなる安全で安心な三重の実現に繋げていくため、今後も、アクションプログラムに基づき、県民や事業者の皆さん、市町、警察などさまざまな主体との協創による取組の促進が図られるよう努めていきます。